



居場所づくりのための校内適応指導教室を 全市立中学校に設置しました！



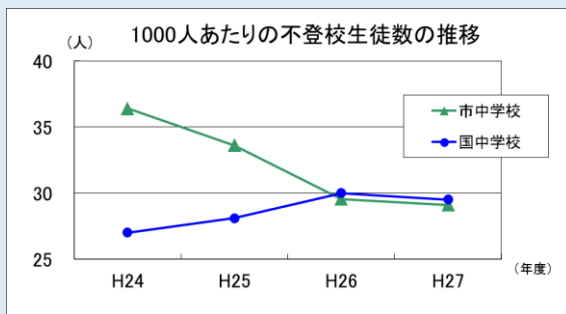
久留米市では、「第3期久留米市教育改革プラン」の3つの重点のうちの1つである「たのしい学校【安心・安全な学校づくり】」の実現に向けた「不登校対応総合推進事業」として、平成28年度から全ての市立中学校に校内適応指導教室を設置しています。

これは、不登校及び不登校傾向の生徒に校内での居場所をつくり、学習指導や教育相談及び進路指導を行うことで段階的に教室復帰ができるように支援を行うものです。

Q 中学校の不登校生徒の割合は多い？

A 右のグラフは、平成24～27年度までの不登校生徒の割合を国、久留米市別に表したものです。

平成25年度まで久留米市の割合は全国平均を上回っていましたが、平成26年度には全国を下回るなど減少傾向にあります。



Q 適応指導教室ではどんな支援をしている？

A 各中学校の適応指導教室に、2名の指導助手を配置し、生徒の実態に応じた学習支援や日常会話を通した学校生活に関する悩み相談等を行っています。

Q 適応指導教室設置による成果は？

A 各学校からは、「生徒の悩みが軽減された」「学習に意欲的に取り組むようになった」「自分の進路に希望を持ち始めた」「自分の教室に入れるようになった」などの報告があります。

英検3級以上の取得率が全国平均を超えました！

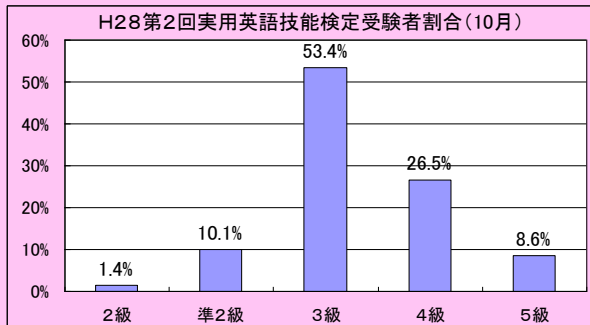
平成28年10月7日及び9日に、久留米市の全中学校3年生が実用英語技能検定を各学校で受験しました。

これは、久留米市の英語教育充実を図るために、今年度から実施している事業の一つで、英語の学習意欲や英語運用能力の向上を図ることを目的としています。

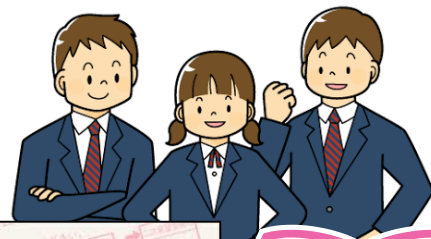
各学校では、生徒自ら選択した2級から5級までの受験に向け、模擬試験や過去問による事前学習等を行い、準備を進めました。

その結果、平成28年度市立中学3年生の3級以上取得率は20.8%で、平成27年度の全国中学3年生の3級以上取得率18.9%を超えることができました。

久留米市では引き続き、さらなる英語力向上のために、英語でのスピーチや発表、友達との会話にも積極的にチャレンジして、自分の英語力を高める意欲を育むことに取り組みます。



英検



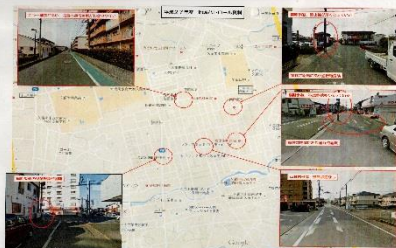
安全・安心な学校生活をめざして



久留米市では、各小学校で安全教育に取り組む「セーフスクール推進事業」を進めています。

セーフスクール推進校では「安全教育プログラム」を作成し、各教科や特別活動など学校の教育活動全体を通して、地域団体や関係機関と連携しながら安全教育を推進しています。

具体的には、校内のけがを予防するための安全で楽しい遊び方の紹介や校内安全マップの作成、交通ルール・マナー徹底のための技能練習を重視した交通教室の実施、防犯意識を高めるための地域ボランティアの活用による校区安全マップの作成等の取組を行っています。



安全マップづくり



防犯教室

※セーフスクール推進事業とは？
毎年小学校10校を「セーフスクール推進校」として指定し、「学校安全」モデル校である上津小学校の先導的な取組を生かし、地域や関係機関と連携した安全教育を推進するものです。

★下記のような取組をさらに充実させます

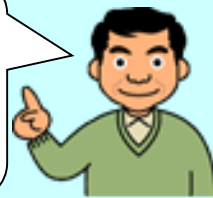
- ①校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化
- ②校舎外で安全に過ごす意識付けと実践化
- ③いじめの未然防止、早期発見・早期対応
- ④火災・地震等の災害から身を守る安全教育の充実
- ⑤交通安全教育の充実
- ⑥地域・保護者と連携した交通指導の充実
- ⑦防犯教育の充実
- ⑧地域・保護者と連携した防犯の取組の充実

地域に開かれた特色ある学校づくりの推進

小・中学校コミュニティ・スクール（久留米版）推進事業では、地域の教育力を生かして、様々な体験活動や教育活動を充実させるため、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進しています。

その1つの例として、津福小学校では、地域のボランティアの協力を得て、子どもに学ぶ楽しさと自信をもたせる放課後学習会を開催しています。

（ボランティアの声）
自力で解けるようになった子が増えた。
言葉遣いや行儀までよくなっているから嬉しい。



津福小放課後学習の概要

- ☆ 開設：平成25年
- ☆ ボランティア登録者数：31名
（常時活動15～16名）
- ☆ 開催日：毎週金曜日の15：35～16：05
- ☆ 場所：津福コミュニティセンター
- ☆ 年間活動回数：23～24回
- ☆ 参加者：小学2年生
- ☆ 学習内容：算数



学校ICT環境が整いました。

久留米市では、校務の情報化を図るために「学校ICT環境再整備事業」を立ち上げ、本年度は、市内の全小・中・特別支援学校の教職員のパソコンをネットワークで結びとともに、校務支援システムの導入を進めました。

校務支援システムでは、児童生徒の学習状況などの情報を登録し、教職員で情報を共有しながら子どもたちを指導することができます。

学校生活の様子を他の先生も書き込んでくれるから助かるわ。

全学級の出席状況も確認しやすくなったな。

校務支援システムで出席管理や学習状況把握がしやすくなったな。



ネットワークで結ぶことにより、授業実践資料や学習教材、教職員向けの研修資料を共有し、学習指導や教職員研修に活用できるようになります。

教材データをいただけませんか？

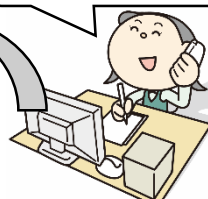
わかりました。すぐに送ります。



A学校の教員

教材データ

容量が大きいデータも即座に共有が可能



B学校の教員

次年度から学校ICT環境を生かした教育活動がいよいよスタートします。
学校ICT環境を活用し、久留米市の教育のさらなる充実に努めます。

地域の中で、出会う・学ぶ・つながる

中学生による地元教材「れんこんの詩」の劇 (明星中校区人権のつどい)



観る側も、演じる側も
ともに学ぶ良い機会に
なった、生徒や地域の
大人たちによる人権劇

江南中校区人権フェスタ



実行委員会による人権劇「私の宝物」 (江南中校区人権フェスタ)

市内全中学校区に設置されている「中学校区人権のまちづくり推進協議会」では、地域と学校が一体となり、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくすための様々な取組が行われています。その活動の一環として、昨年の10月から12月に、6つの中学校区(江南・明星・諏訪・牟田山・屏水・田主丸)で人権フェスタやつどい等が開催され、多くの児童生徒や地域の方々、人権を軸にした学びを共有し、つながりあう場となっています。

<生徒の感想から>

人権フェスタに参加して、校区で人権を守る雰囲気をつくっているのだと感じ、人権について、大人になっても、いつまでも考えていくことの大切さを知りました。



高良内校区人権啓発推進協議会からのメッセージ (明星中校区人権のつどい)

明星中校区人権のつどいでは、市内複数箇所で開催している差別落書き事案についてのメッセージが発信されました。

差別落書きは部落差別を助長拡大する行為であることや、こうした行為を許さない地域づくりに向けた協働の取組が大切であることを、参加者全員で確認することができました。

これからも、学校・地域の協働による、教育・啓発の充実をめざします。

教育分野で久留米シティプラザを活用！



『第5回「くるめ学」子どもサミット』を久留米シティプラザで開催しました。

各学校の文化祭等で、久留米シティプラザを利用しています。



久留米シティプラザが昨年4月に完成しました。久留米のシンボルとなるこの施設を、「くるめ学」子どもサミットや各学校の文化祭等で活用したほか、中学校や高校の吹奏楽部員等が、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のリハーサルに招待されたり、中学校の生徒が九州交響楽団のコンサートを聴いたり、教育に関する様々な場面で活用しています。